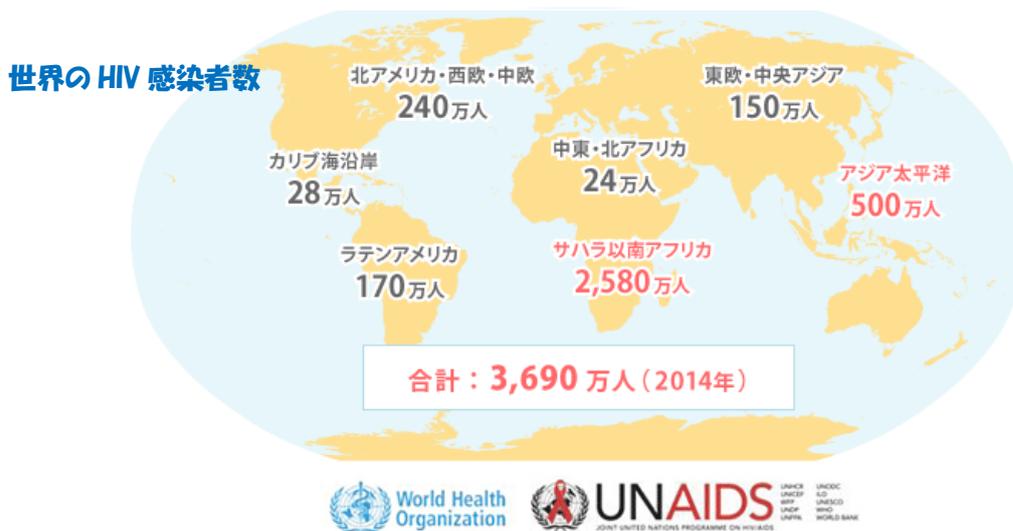


## ■世界エイズデー

世界エイズデーは、世界レベルでのエイズの蔓延防止と患者に対する差別・偏見の解消を目的に、WHO（世界保健機構）が1988年に制定したもので、毎年12月1日を中心に世界各国でエイズに関する啓発活動が行われます。



(HIV 検査相談マップ <https://www.hivkensa.com/whatis/>より引用)

## ■ まずは、HIV 検査を - HIV と長くつき合っていくために -

エイズとは後天性免疫不全症候群<sup>1</sup>の略で、HIV<sup>2</sup>（ヒト免疫不全ウイルス）が免疫細胞に感染し、免疫機能を破壊して後天的に免疫不全を起こしている状態です。ひと昔前は、一度感染すると重篤な状態になってしまう恐ろしい病気でしたが、抗レトロウイルス薬が開発されて以降は、エイズの発症を抑えることができるようになり、HIV と共に長く生きられるようになりました。

HIV と共に長く生きていくためには、自分が HIV に感染していることを知る必要があります。つまり、まず HIV 検査を受けることが大切なのです。しかし日本を含む世界の多くの国では、エイズに対する恐怖心があることで、人々が HIV 検査を受ける妨げとなっています。日本赤十字社は、世界で最も HIV 感染率の高い地域である南部アフリカ地域の 5 カ国（ナミビア、マラウイ、スワジランド、南アフリカ共和国、ザンビア）で、HIV を中心とする感染症対策事業を実施しています。具体的には、



マラウイ国ンチシ県でピアエデュケーションをする HIV 感染者市民グループと現地を視察した国際赤十字・赤新月社連盟職員 1 名と日本赤十字社職員 3 名。

©日本赤十字社

<sup>1</sup> 英語で AIDS (Acquired Immunodeficiency Syndrome)

<sup>2</sup> Human Immunodeficiency Virus

HIV 検査の提供、その後のカウンセリング（検査で HIV 感染と知った際に、治療に向き合うために、今後の治療などの助言等の支援）やピアエデュケーション（同じ症状の仲間とつながって励まし合ったり、情報交換をしたり、HIV 予防の啓発活動を行う）などの活動も支援しています。

## ■ 日本でも HIV 感染者は増えています

HIV/エイズは、他の国の出来事ではありません。日本でも毎年 1000 人以上の人が HIV に感染していると報告されています。一方で、「自分には関係がない」「感染しているのを知るのが怖い」といった理由で、検査を受ける人が少ないのが現状です。HIV に感染すると、感染者はしばらくは自覚症状がありませんが、HIV 感染の疑いを自覚したときには、すでに全身の免疫機能が破たんしていることが多いのです。つまり、突然「エイズを発症している」と宣告されることとなります。それを予防するためには、自分が HIV に感染していることを早く知り、うまく HIV とつきあっていくことが重要です。性的接触をするすべての人に感染の可能性があると思って、検査を受けることが必要です。

### 日本の HIV 感染者数・エイズ患者数



(HIV 検査相談マップ <https://www.hivkensa.com/whatis/>より引用)

## ■ 社会との関わりが大切 - 病気と共によく生きていくために -

HIV 感染に限らず、病気とともにうまく生きていくためには普通の社会生活を送ることが大事です。つまり定期受診をしながら、仕事に復帰したりなど社会と関わることです。そして、病気と付き合いながら生きている人たちを支援する社会の存在が大切です。赤十字の南部アフリカ地域における支援は、HIV で家族を失い貧困に生きる人々に対して家畜などを提供して生計支援をしたり、保育施設の運営なども行っています。社会生活ができるための体制づくりは、病気と付き合い合う人を含め、社会的に弱い立場の方々を支える力になります。

皆様から頂いたご寄付で、このような活動を実施しています。これらの活動が、今後も彼らが自分たちで生きていく強い力となります。

**NHK**  
海外たすけあい

12.1(Sat)~25(Tue)

救うことを、つづける。

日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

Facebook  
Twitter  
Instagram

SNS でも続々と  
赤十字の活動情報を配信中！  
ぜひご登録ください！！